

【この時期の管理ポイント】

- 暖冬等の影響によりカメムシ類の発生は多めです。畦畔・農道の草刈りを徹底しましょう！
- 中干し後は、間断灌水や飽水管理により、根の健全な発育を促し、気象変動(猛暑や強風)に負けない丈夫な稲づくりを実践しましょう！
- 登熟を高めるため、ケイ酸資材の施用(追肥)を積極的に行いましょう！

1 6月18日現在の水稻生育状況 (生育は昨年並に進んでおり、莖数も多い)

- (1) 5月下旬～6月上旬が高温・多照となり、莖数は急速に増加し、葉数も昨年並に進んでいます。
- (2) 気温も高く経過し、梅雨入り後は曇天の日がやや多くなったことから、草丈も長めで、葉色も高めに経過しています。
- (3) 現在(6/18)の生育状況
草丈：長め 莖数：多い 葉数：進んでいる 葉色：濃い

表1 水稻生育状況(6月18日現在)

品種名	地域名	中穂日	草丈(cm)			莖数(本/m)			葉数(L)			葉色(SPAD)		
			本年値	前年値	比(%)	本年値	前年値	比(%)	本年値	前年値	差	本年値	前年値	差
コシヒカリ	指標値	5/10	34	-	-	350	-	-	8.3	-	-	37.5	-	-
	水原 下条	5/8	47	39	120%	462	417	111%	9.4	9.2	+0.2	41.1	41.8	-0.7
	京ヶ瀬 京ヶ島	5/3	42	44	95%	544	463	117%	9.1	9.4	-0.3	40.4	38.1	+2.3
	安田 嶋瀬	5/4	46	48	96%	391	535	73%	9.5	9.8	-0.3	43.0	42.7	+0.3
	笹神 七浦	5/3	43	38	113%	472	493	96%	9.1	9.9	-0.8	39.8	40.3	-0.5
こしいぶき	指標値	5/10	33	-	-	350	-	-	8.1	-	-	42.1	-	-
	水原 中潟	5/7	46	38	121%	545	577	94%	9.3	9.7	-0.4	43.5	42.1	+1.4
	京ヶ瀬 田山	5/3	40	40	100%	436	568	77%	9.4	9.5	-0.1	42.4	41.3	+1.1
	安田 籠田	5/9	38	35	109%	391	369	106%	9.5	9.5	±0	43.6	42.2	+1.4

2 中干し後～穂肥までの管理 (溝切り・飽水管理・ケイ酸資材の施用)

6月18日発表の北陸地方の1ヶ月予報では、気温はやや高め、日照時間は昨年並～やや多い、降水量はほぼ昨年並の予想です。その後はラニーニャ現象が強まり暑い夏となる予想です。高温やダシ風など気象変動に負けない技術対策が必須となっていますので、下記の対策を参考に組みを組みを徹底しましょう。

(1) 溝切りは必ず実施しましょう

- ・迅速な水の供給と排水、濁水時の効率的な水利用を図るため、溝切りは必ず行いましょう。
- ・中干し後は、飽水管理や間断灌水(浅水で湛水→足あとに水が残っているくらいまで減水→再び浅水湛水)を継続しましょう。ダシ風が予想される場合は早めに入水し、水利用が集中しないよう早めに対応しましょう。

(2) ケイ酸資材の積極追肥で登熟向上を図りましょう。

- ・稲は、出穂40日前頃から出穂期にかけて、ケイ酸を最も多く吸収します。このため、出穂40～35日前のケイ酸追肥は丈夫な稲づくりとともに登熟向上に効果的です、積極的に施用しましょう。

(3) 業務用米・飼料用米等の管理ポイント

- ・極早生の業務用米(ちほみのり、ゆきん子舞、ゆきみのり等)や、飼料用米(新潟次郎)は、出穂が早いので穂肥が遅れないよう注意しましょう。
- ・一発タイプの施肥でも葉色の低下が進む(SPAD値40を下回る)ような場合は追肥を行いましょう。

表2 主なケイ酸資材の施用例

資材名	施用時期	施用量(kg/10a)
けい酸加里P1734	出穂35～40日前	20～40
マルチサポート2号	出穂40日前	20～40
ミネラル三味	出穂20～40日前	15～30

★ケイ酸の効果

- ・受光態勢が良くなり登熟を高めます。
- ・根の機能を高め、根腐れ防止や吸水力等を高めます。
- ・高温時、葉面温度の上昇を抑え光合成能力の低下を防止します。
- ・茎葉が丈夫になり病害虫に対する抵抗力が強まります。

3 穂肥施用のポイント「出穂は、平年より2日早い(昨年より1日遅い)予想」

- (1) 6月18日現在の生育は、5月下旬～6月上旬の高温・多照により進んでいます。出穂期は平年に比べ2日程度早い予想ですが今後の天候により変動しますので、あくまでも現段階での「めやす」としてください。
- (2) 穂肥の施用に当たっては、最新情報を確認するとともに、必ず生育診断を行いましょう。
- (3) 特に極早生品種は、施用時期が早いので、1回目の穂肥が適期に施用できるよう準備しておきましょう。
- (4) 穂肥に使用する肥料の種類や施肥体系による使用時期や施用量に注意しましょう。(下表)

表3 出穂予想と穂肥の施用量・時期のめやす ※ 連休田植えを基準に予想

品種名	幼穂形成期	出穂期	穂肥窒素量(kg/10a)	穂肥時期			
				1回目		2回目	
ちほみのり	6/28	7/20	4～6	6/25 (-25)	～ ～	6/27 (-23)	7/6 (-14)
つきあかり	7/3	7/25	4～6	6/30 (-25)	～ ～	7/2 (-23)	7/11 (-14)
こしいぶき	7/4	7/27	2～3	7/4 (-23)	～ ～	7/7 (-20)	7/13 (-14)
コシヒカリ	7/14	8/4	1～3	7/17 (-18)	～ ～	7/20 (-15)	7/25 (-10)
新之助	7/20	8/11	1～2	7/21 (-21)	～ ～	7/23 (-18)	7/31 (-12) ～ 8/1 ～ (-10)
ゆきみのり	6/29	7/21	3～5	6/28 (-23)	～ ～	6/30 (-21)	7/7 (-14)
わたぼうし	7/2	7/24	3～4	7/1 (-23)	～ ～	7/4 (-20)	7/12 (-12) ～ 7/14 ～ (-10)
こがねもち	7/8	7/30	1～3	7/12 (-18)	～ ～	7/15 (-15)	7/20 (-10)

※幼穂形成期：幼穂長1mm以上の穂が全体の80%以上となった時(出穂23～22日前)

表4 肥料の種類及び施肥体系別穂肥施用のめやす(コシヒカリ)

施肥体系	肥料の種類	出穂前日数				
		30日前	25日前	18～15日前	10日前	3日前
分施	化学肥料	-	-	1回目	2回目	3回目 ★葉色32(葉色板3.9)以下 の場合のみN1.0kg
	有機質肥料					
	有機由来N:50%	-	1回目	2回目	3回目 ★葉色32(葉色板3.9)以下 の場合のみN1.0kg	-
	有機由来N:100%	1回目	-	2回目		
基肥 一発	化学肥料	-			追肥 ★葉色32(葉色板3.9)以下の場合のみN1.0kg	